

紛争を生きる

ジャーナリストが見た 戦時下の中東

事前登録不要
入場無料

日時

2020年1月25日(土) 13:30 - 17:00

会場

京都経済センター大会議室 6 - C (定員105名)
京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78

講演者(イタリア語通訳あり)



玉本 英子
(たまもと・えいこ)

東京生まれ。アジアプレス所属。中東地域を中心に20年以上取材。テレビの特集や新聞への寄稿、共著本多数。「戦火に苦しむ女性や子供の視点に立った一貫した姿勢」が評価され、第54回ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞。「ヤズディ教徒をはじめとするイラク・シリア報告」で第26回坂田記念ジャーナリズム賞特別賞。



Francesca Borri
(フランチェスカ・ボッリ)

南イタリアのバーリに生まれる。人権擁護の分野にて、バルカン半島、イスラエル、パレスチナを中心とした中東地域で働く。2012年にアレッポの戦いについて初めてルポルタージュを書く。以来書き続けた記事は24言語に訳されてきた。英ガーディアン紙、イスラエルのイエディオト・アハロノト紙等に寄稿。

司会・コメンテーター



鳥山 純子 (とりやま・じゅんこ)

立命館大学国際関係学部准教授。専門はジェンダー学、文化人類学。研究テーマは、現代エジプト都市部の女性の自己成型、中東における格差と教育。主な著作に『イスラームってなに？シリーズ2 イスラームの暮らし』（かもがわ書店、2017年）



立命館大学「中東・イスラーム研究センター（CMEIS）」設立を記念し、中東・イスラーム地域を舞台とし果敢に取材を続けるお二人のジャーナリストをお迎えして講演会を開催いたします。日本からはアジアプレス・インターナショナルより玉本英子氏を、そしてイタリアよりフランチェスカ・ボッリ氏にご登壇いただき、現地でしか知りえることができない「実情」を伺います。テレビや新聞では報道されない「今の中東」について、最前線に立つ2人が見たものとは一体何か、そのリアルな情報にご期待ください。

プログラム

13:00 開場

13:30 開会挨拶

13:35 玉本英子氏講演

14:35 Francesca Borri氏講演（イタリア語通訳あり）

15:45 休憩

15:55 鳥山純子先生コメント

16:05 玉本・Borri両氏対談（司会：鳥山先生／イタリア語通訳あり）

16:55 閉会挨拶



ISに拉致されたヤズディ少年たちの中には洗脳され、IS戦闘員になっていた子もいる。今年解放された17歳のヤズディ少年はIS戦闘員となり戦い、左足を失っていた。（2019年11月イラク・クルド自治区・撮影玉本）



シリア民主軍の同行取材にて（2019年10月シリア・ラッカ・撮影アジアプレス）

主催 立命館大学中東・イスラーム研究センター／立命館大学国際地域研究所／

科研費新学術領域研究計画研究B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」（研究代表者：末近浩太）

問合先 17v00017@gst.ritsumeai.ac.jp（担当：二宮）